

患者さんに一刻も早く成果を届けるための 医療イノベーション推進を



末松 誠

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構
理事長

1983年慶應義塾大学医学部卒業。同大学助手（医学部内科学教室）を経て、1991年カリフォルニア大学サンディエゴ校応用生体工學部にResearch Bioengineerとして留学。2001年慶應義塾大学教授（医学部医化学教室）、2007年同大学医学部長。文部科学省グローバルCOE生命科学「In vivoヒト代謝システム生物学拠点」拠点代表者などを歴任。2015年4月より現職。国立研究開発法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業（ERATO）「末松ガスバイオロジープロジェクト」研究統括を兼務。主要研究分野は、代謝生化学、ガスバイオロジー。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED：Japan Agency for Medical Research and Development）は、医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担う機関として、この4月に誕生しました。

AMEDの使命は、基礎研究や臨床研究から生まれた医療分野の成果を実用化して、一刻でも早く患者さんに届けることです。そのために文部科学省・経済産業省・厚生労働省の医療分野の研究開発に関する予算を一元化し、「目利き」のレビューに基づいて資金を重点的・戦略的に配分することによって、基礎から実用化まで切れ目のない研究開発のマネジメントを実践します。

政府が定めた「健康・医療戦略」には、健康長寿社会の形成に向けた世界最高水準の医療技術・サービスの実現、健康関連産業の創出・海外展開の促進が謳われています。医療機器のグローバル市場は世界規模の超高齢化や新興国での医療需要の増大に伴い更なる拡大が見込まれますが、国内市場は輸入超過で推移しており、貿易赤字は年間約8,000億円に上ります。わが国は世界有数の基礎研究力・技術力を誇りながら、実用化で遅れを取っています。今後、医療機器産業を日本の成長を支えるリーディング・インダストリーに変貌させるためには、研究開発のイノベーションを強力に推し進め、国際競争力を持つ革新的な国産機器やシステムを生み出す必要があります。

このためにAMEDでは「オールジャパンでの医療機器開発」として、産学官の協働・医工連携によるさまざまな取り組みを始めています。臨床現場のニーズの効果的な拾い上げ、大学における基礎研究から企業・医療機関等における臨床研究への橋渡し機能の充実、臨床研究・治験・実用化に至る各フェーズを切れ目なく支援する伴走コンサルなどがその例です。わが国が強みを持つロボット・IT（Information Technology）技術や中小企業のものづくり技術をフル活用し、未来医療を先取りするような医療機器やシステム開発、製品のパッケージ化等を実現し、販路を拡大する：簡単なことではないですが、医療研究開発のあり方を「21世紀型に変革」することは、必ずや研究開発速度の最大化につながるはずで。世界が注目する「日本品質」の実用化は、ヘルスケア・イノベーションを大きく進めることができると期待しています。

AMEDの設立が、医療の質や効率性を高め、国民の健康寿命を延ばし、革新的な成果を患者さんに一刻も早く届けることを通じて、国の成長の原動力となることを願って止みません。